

高度情報技術の進展に応じた教育革新に関する研究

(国立教育政策研究所)

研究期間：令和元年度～令和4年度

調査対象：教育委員会調査（教育長、指導主事等）、学校調査（校長）

本研究の目的は、第三期「教育振興基本計画」を踏まえ、ICT・AIなど進展する行動情報技術を学校教育にも積極的に取り入れることにより、教育の質を一層高めていく教育革新を推進するための方策検討に資する知見を提供すること。

このうち、「促進条件班」では、高度情報技術の活用はどのような組織体制・研修体制を築いた教育委員会や学校のもとで促進されるか、またどのような活用が教職員の勤務体制の改善や児童生徒の多様なニーズに配慮した質の高い教育と支援を実現し、効果を発揮できるか総合的に調査研究することを通じて、教育革新を公正に推進するための条件整備の検討に資する知見を提供する。

学校設問肢（抜粋）

Q. 貴校に情報通信技術支援員は配置されていますか。

- ・学校にICT支援員が常駐している
- ・複数の学校を巡回するICT支援員が配置されている
- ・教育委員会又は教育センター・研究所に要請すればICT支援員が派遣される
- ・学校にも教育委員会等にもICT支援員が配置されていない・その他

Q. 貴校では現在、小学5年生又は中学2年生の授業において、以下のデジタル教材・ソフトウェア・アプリサービス等をどのくらいの頻度で活用していますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

1. 学習支援クラウド：Google Classroom、ロイロノートなど
2. デジタルドリル：Qubena、スタディサプリなど
3. 動画教材
4. プログラミング向けツール
5. 遠隔授業用ツール

【・全く活用していない ・たまに（1か月に1回かそれ未満） ・時々（1か月に2~4回） ・ひんぱんに（1週間に2~4回） ・毎日】

Q. 貴校では現在、小学5年生又は中学2年生の教育において、以下のそれぞれの目的でICTを実際に活用していますか。

実際に行っている活用の目的としてあてはまるものを全て選んでください。

- ・ 言語能力の育成
- ・ 情報手段の基本的な操作の習得を通じた情報活用能力の育成
- ・ プログラミング的思考を通じた情報活用能力の育成
- ・ 情報モラル・情報セキュリティに関する情報活用能力の育成
- ・ 問題発見・解決能力の育成、各教科の「見方・考え方」を働かせる授業や学習活動の充実
- ・ 探究的な「見方・考え方」を働かせる教科横断的・総合的な授業や学習活動の充実
- ・ 児童生徒の基礎基本の定着、児童生徒による情報収集や調査活動の促進
- ・ 児童生徒1人ひとりの学習の深度に応じた学習支援、発表や話し合い、協働での意見整理
- ・ 協働制作などの協働学習の促進、各教科の授業での情報の提示
- ・ へき地や小規模校への対応としての遠隔授業（配信型）
- ・ へき地や小規模校への対応としての遠隔授業（双方向型）
- ・ 不登校や「院内学級」への対応としての遠隔授業（配信型）
- ・ 不登校や「院内学級」への対応としての遠隔授業（双方向型）
- ・ 臨時休業や分散登校への対応としての遠隔授業（配信型）
- ・ 臨時休業や分散登校への対応としての遠隔授業（双方向型）
- ・ 他校、他地域、海外等、離れた場所にいる人々との遠隔交流
- ・ 学習指導員・学習支援員等による遠隔での学習支援・相談対応等
- ・ 学習評価の充実
- ・ 採点の効率化
- ・ 授業準備の効率化
- ・ 学習データ管理・共有の促進・効率化
- ・ 健康データ管理・共有の促進・効率化
- ・ 特別な配慮が必要な児童生徒に関する情報共有の促進・効率化
- ・ 児童生徒による自分自身又は匿名でのSOSの発信・教職員との情報共有の促進
- ・ 教職員と児童生徒・保護者との日常的なコミュニケーションの促進・効率化
- ・ 研究授業・校内研修における教員の授業
- ・ 研究授業・校内研修における児童生徒の学習活動
- ・ 事前研修や事後研修（ワークシートの参照や記録の見直し等を含む）
- ・ いずれの目的でも活用していない

Q. 貴校では現在、小学5年生又は中学2年生の放課後学習や家庭学習において、児童生徒は以下のデジタル教材・ソフトウェア・アプリケーションサービス等を活用していますか。それぞれ当てはまるものを全て選んでください。

1. 学習支援クラウド：Google Classroom、ロイロノートなど
2. デジタルドリル：Qubena、スタディサプリなど
3. 動画教材
4. プログラミング向けツール
5. 遠隔授業用ツール

【・放課後学習で活用している ・家庭学習で活用している ・どちらでも活用していない】